

いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



6月号 発行 平成26年 6月25日

〈東日本大震災関連〉



いわき地方の農林畜産物 モニタリング検査結果

福島県が行った、いわき地方の5月の農林畜産物の放射性セシウムモニタリング検査結果をお知らせします。

(表1) 農林畜産物の検査結果 (5月末現在)

1点も検出されなかった品目と検体数	検体の一部が検出された品目と検体数		検体の全てが検出された品目と検体数		計	
	13品目	3品目(※1)		1品目(※2)		17品目
	検出限界値以下の検体	基準値内で検出された検体	基準値超で検出された検体	基準値内で検出された検体	基準値以上で検出された検体	
22検体	12検体	6検体	0検体	1検体	0検体	41検体

※1：もみじがさ(しどけ)(野生)、うど(野生)、牛肉
※2：うわばみそう(野生)

検査した17品目41検体のうち、13品目22検体全てにおいて、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は(表2)のとおりです。

(表2) 1点も検出されなかった品目と検体数

アスパラガス 1、たらのめ 1、紫アスパラガス 1、菌床なめこ(施設) 1、ふき(野生) 2、菌床しいたけ(施設) 2、ほうれん草 2、小松菜 4、チンゲンサイ 1、エリンギ(施設) 1、そら豆 1、サヤインゲン(施設) 1、原乳 4

なお、うわばみそう(野生)、もみじがさ(しどけ)(野生)、うど(野生)、牛肉については、それぞれ1~3検体に100ベクレル/kg以下の放射性セシウムが検出されました。内訳は(表3)のとおりです。

(表3) 基準値内で検出された品目と検体数

品目	うわばみそう(野生)	もみじがさ(野生)	うど(野生)	牛肉	
検体数	1	4	3	11	
(うち 基準値内)	(1)	(4)	(3)	(11)	
内訳	100ベクレル/kg以下(最大値)	1 (19.0)	3 (26.4)	2 (22.0)	1 (30.0)
	検出限界値以下	0	1	1	10

5月31日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、(表4)のとおりです。

(表4) 出荷制限及び出荷自粛品目 (5月末現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限 (9品目)	野菜・根菜・芋類	無
	果物	ユズ
	穀類	クリ
	山菜	たけのこ、ぜんまい、わらび、たらのめ(野生のものに限る)、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
出荷自粛 (1品目)	畜産物	無
	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

また、昨年に引き続き平成25年産の米についても全袋検査を実施しており、5月末までの検査点数559,641点のうち、99.96%の559,398点が測定機器の測定下限値未満、243点が基準値内で検出されましたが、基準値を超過したものはありません。

(表5) 玄米(平成25年産)検査状況(5月末現在)

測定値区分 (単位:ベクレル/kg)	測定下限値未満(<25)	25~50	51~75	76~100	100以上	計
検査点数(点)	559,398	240	2	1	-	559,641
割合(%)	99.96	0.04	0.00	0.00	-	100.00

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、平成24・25年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

「いわき地域の恵み安全対策協議会総会」が開催されました

5月7日（水）、「いわき地域の恵み安全対策協議会」平成26年度第1回総会が、いわき市役所で開催されました。今年度も引き続き、関係機関・団体協力のもと管内9カ所で米の放射性物質の検査を実施するとともに、検査結果を消費者に提供し、安全対策推進活動を推進することを確認しました。

総会は鈴木副会長（福島糧穀（株））のあいさつの後、役員選任が行われ、新会長に鈴木いわき市農林水産部長が選任されました。平成25年度の事業は、関係機関・団体協力の下、約55万袋の米の全袋検査を行い、検査結果を消費者等に対して発信してきたことが報告されました。また、平成26年度も引き続き米の放射性物質検査と検査結果の消費者への提供が承認されました。

いわき地方畜産経営基盤強化推進協議会を開催しました

5月12日（月）、県いわき合同庁舎において、いわき地方畜産経営基盤強化推進協議会を開催しました。本協議会は、水田の活用等による飼料基盤の確保をはじめ、持続可能な生産を実現するための経済基盤の強化により畜産の振興を図り、畜産経営が安定して発展することを目的としています。

今回は、東日本大震災と原発事故の影響のために、平成22年2月以来4年ぶりの開催となりました。会議では、原発事故により利用できない牛ふん堆肥、稲わら、牧草を処理する農業系汚染廃棄物処理事業や自給飼料生産対策、牧草・飼料作物のモニタリング検査、酪農・肉用牛経営の増頭対策などについて、関係機関・団体が連携して取り組んでいくことを確認しました。

酪農・肉用牛農家のみなさん、生産基盤を充実し、牛飼いを続けていきましょう！



（協議会の様子）



山火事防止広報活動

春先は空気が乾燥し山火事の発生しやすい期間であり、今年4月12日（土）にいわき市三和町で大規模な山火事が発生し、約29ヘクタールの森林が焼失しました。

また、平成25年にいわき市内では13件の林野火災が発生しており、その多くは、たき火・たばこ・放火・火入れなど人為的な要因となっています。

市内の貴重な森林資源を山火事から守るため、いわき市、いわき市消防本部、いわき市森林組合、磐城森林管理署、磐城林業協同組合、いわき市内団共長連絡協議会、もりの案内人いわき支部及び福島県で組織しているいわき地方山火事防止連絡協議会では、広報誌やホームページへの掲載、ポスターの掲示やチラシの配布、のぼり旗の設置や自然保護指導員などを通じた入山者に対する啓発など、各会員が一丸となり積極的な山火事防止の広報活動を実施しました。

農林事務所も協議会の一員として、県いわき合同庁舎入口などに「山火事注意」ののぼり旗を設置し来庁者へのPRを行ったほか、5月2日（金）から13日（火）までに合計5日間、公用車に山火事注意の看板とスピーカーを設置していわき市内の各地区を巡回し、地域住民の方や入山者などへ山火事防止の広報活動を実施しました。

これらの活動により山火事の発生が少しでも減少することを願っています。



（地域住民へのチラシ配布の様子）

いわき木材流通センター 記念市が開催されました

5月19日（月）、いわき市遠野町にあるいわき木材流通センターの創立19周年記念市が行われ、いわき市のスギを中心とする素材約3,000m³が出品され完売しました。

今回の記念市は、4月の降雨の影響で県道いわき石川線が通行止めになっているため、出品量の減少が懸念されていましたが、例年どおりの出品となりました。

また、消費税増税施行前の住宅建設の駆け込み需要の反動により、製材工場の原木の買い控えが予想されたにもかかわらず、全量完売となりました。

そのほか、例年素材の値が下がる時期ですが、主力商品であるスギは前月よりも高値で取引されました。

木材市場の活発な動きで、森林整備のさらなる促進が期待されます。



(木材流通センターの出品状況)



赤井小学校で田んぼの 学校が始まりました！

5月23日（金）、「田んぼの学校」が開校され、いわき市立赤井小学校5年生児童58名が、田植えを行いました。

田んぼの学校は、県の「ふくしまの農育推進事業」により、地域の未来を担う子どもたちが、『農業・農村地域の大切さ』や『環境の大切さ』、『食・命の大切さ』について理解し、豊かな感性を育むことなどを目的とした体験型学習です。

児童は、体育館で開校式を行った後、学習田に移動し、田植えを行いました。地元農家の指導員や農林事務所職員から田植えの仕方を教わり、水田に入り直接手で苗を植えていきました。

初めて田植えをする児童がほとんどで、初めは恐る恐る植えていましたが、植え方のコツをつかむと次々と新しい苗を受け取り、元気いっぱい田植えを楽しんでいました。

当日は天候も良く、5アールの田んぼを泥だらけになりながら、上手に植えることができました。

次の活動は、7月に田んぼの生き物調査と水質調査を実施する予定です。



(泥だらけになりながら頑張りました！)



(すがすがしい笑顔です。)



先端技術型スマートアグリ 植物工場完成！ トマト出荷始まる！



平成26年5月下旬より、いわき市平赤井の「あかい菜園（株）」が新たに規模拡大したハウス（60アール）でトマトの出荷が本格的に始まりました。

このハウスは、あかい菜園のグループ会社である（株）テックが、あかい菜園や研究機関等と連携し、経済産業省の平成25年度先端農業産業化システム実証事業を活用して開発・導入したものです。

このシステムは、国産の環境制御装置で、栽培コストの削減をはじめ、生産者の多くの声が反映された使いやすいものとなっています。

また、愛媛大学と連携した生育診断ロボットによるデータ集積の成果は、現場の栽培管理に活用されることが期待されます。

栽培方法は、通常よりも1.5倍の密度でトマトを植え、低段（4段）まで収穫後、次々に苗を植え替えて回転効率を上げる「低段密植栽培」を新たに導入しました。この方法により、今まで少なかった夏場の出荷が可能となり、既存施設と併せて、周年出荷できるようになりました。

また、規模拡大により地域の雇用も増え、地域振興にも貢献しています。

いわき野菜の顔である「トマト」の新しい取組として、期待されています。



(新設されたハウス内部)



(LED活用した生育診断ロボット)



(収穫をむかえたトマト)



(新設ハウス外観)



新たな試験操業（アワビ、ヒラツメガニ、ガザミ）

震災後初めて、アワビ、ヒラツメガニ、ガザミ（ワタリガニ）の試験操業が始まりました。アワビは、いわきを代表する水産物の一つであることから注目度も高く、初出荷の5月29日（木）には多くの報道陣や漁業関係者が集まりました。この日販売されたのは、各浜で漁獲された52個、約18kgのアワビです。少量でしたが、いわき中央卸売市場をはじめ、県内4つの公設市場に出荷され、7,000～10,000円/kgの高値で取引されました。

アワビには、福島県産であることと、通し番号を表示したタグを付けて出荷しています。この取組は初めてのことで、放射性物質の検査を経た安全・安心なアワビであることのアピールと、密漁防止、ブランド化することをねらいとして開始されたものです。

ヒラツメガニとガザミは、一般的にはあまり馴染みがない名前かもしれませんが、ワタリガニの仲間であり、浜では茹でガニやカニ汁などの材料として無くてはならない食材です。人によっては、カニの中では一番美味しいという方もいるほどです。市内のスーパーでも販売されますので、見かけた際には、ぜひ、ご賞味ください。



(アワビの初出荷)



(産地表示のタグを付けたアワビ)



(ガザミ)



(ヒラツメガニ)



ふくしま地域産業6次化復興 ファンド第1号が決定しました

5月30日(金)、(株)農林漁業成長産業化支援機構、福島リカバリ(株)、福島県、及び(株)東邦銀行等が設立した「ふくしま地域産業6次化復興ファンド」は、本県初の出資先として「(株)ワンダーファーム」に2億4千万円の出資を決定しました。(株)ワンダーファームは昨年、農林水産業賞で天皇杯を受賞した(有)とまとランドいわきとパートナー企業が共同で設立した新会社です。

(株)ワンダーファームは、平成27年度から、いわき市四倉町において、いわき市の特産であるサンシャイトマト等を原料としたジュース、ジャム、ドレッシング等の製造・販売を計画しています。

また、(有)とまとランドいわきや地域の農家が生産する農作物・特産物を販売する直売所の開設や、新鮮野菜を使ったビュッフェ&グリルとトマトをテーマにしたアラカルトメニューを提供するレストラン等を開設し、年間の総売上げ7億円、来場者30万人を見込んでいます。

(株)ワンダーファームは、(有)とまとランドいわきが行う農産物の生産をベースに、加工・販売までを一体的に行う6次化事業を展開し、地域の雇用拡大・被災地の復興を目指しています。



ふくしま地域産業6次化 復興ファンドとは

ふくしま地域産業6次化復興ファンドは、地域産業6次化を推進する事業者の経営支援を目的とし、県や県内金融機関等が出資して昨年4月に発足しました。

このファンドは、対象経費が限定される従来の補助事業や融資制度とは異なり、事業者の裁量で柔軟に資金を活用できるのが特徴です。



「ふくしま食育実践サポーター」の募集について

本県では、東日本大震災・原発事故後の屋外活動の制限や長引く避難生活等の影響から、将来を担う子ども達の体力低下や食生活・食習慣の乱れなど、健康と食環境に関する様々な問題が提起されています。

このような状況を少しでも改善し子ども達の健やかな成長を期すため、県では、学校や地域団体等からの要請に応じて、地域農林水産物の生産、加工、流通等の見学・説明、調理実習など体験・交流の助言、食生活の改善や地域食文化などの説明・助言等の食育活動を意欲的に実践していただける方々を「ふくしま食育実践サポーター」として登録・派遣する事業を始めました。

特に、5月28日(水)から7月10日(木)までをサポーター募集重点期間とし、食育に関心のある多くの方々からの登録申込み受付を農林事務所企画部(TEL:0246-24-6152)で行っております。

これら登録手続き等の詳しい内容は、農林事務所のホームページで確認することができます。

食彩ふくしま地産地消推進店のメニューの紹介

地産地消推進日（7月は8日（火））に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介しますので、ぜひご賞味ください。
なお、内容は変更される場合がありますのでご了承ください。
また、営業日（メニューの実施日）については、事前にご確認ください。

◇いわき食彩館株式会社 スカイストア（平字一丁目）

推進日を含む毎日のメニュー

- ・地産地消メニュー：弁当、惣菜等
- ・説明：福島県産の安心・安全な食材（7月はアスパラガス、ズッキーニ、カリフラワー等）をふんだんに使用しています。

推進店からのお知らせ

- ・7月5日（土）から6日（日）まで交通会館マルシェ「販売コーナー」にて出店予定

いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
 - (1)モニタリング情報検索
 - (2)出荷制限等一覧表



「東日本大震災」
及び「原発事故」からの
復興のために！

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地

（県いわき合同庁舎 3階）

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>

いわき農林水産ニュース

